

令和3年10月28日開催
第109回近畿ブロック知事会議における西脇知事発言

1. 国への提案要望

○ 新型コロナウイルス感染症関連

- ・ 京都府では、中和抗体薬（ロナプリーブ）を10月中旬までに約860件投与したが、人工呼吸器やECMOの装着に誰も至っていないということで、非常に重症化予防の効果が高いことも踏まえ、少しでも早く医療に繋げることが大事との観点から、保健所によるファーストタッチの迅速化、入院医療コントロールセンターにおける患者の重症化リスクに応じた適切な療養先の選定、入院待機ステーションの拡充や更なる病床の拡充ということで、医療提供体制の充実を図っていくこととしている。これに関して2点、提言に盛り込んでいただきたい。

(中和抗体薬（投与対象の範囲の見直し）)

- ・ 1点目は、中和抗体薬について、新たに承認された「ソトロビマブ」も含め、年齢や疾患等の「重症化リスク因子」とされている投与対象の範囲が限られており、現場からは、医師の判断で迅速に投与できるように、もう少し投与対象の範囲を弾力化できるように見直しをしていただきたい。これは全国知事会でも提言している。

(公立・公的病院のコロナ専用病床化)

- ・ 2点目は、10月15日に国から「公立・公的病院のコロナ専用病床化」の方針が示されたが、マンパワー集約の観点から基本的には賛成ではあるが、一般医療への影響が出ないように、十分な移行期間を設け、現場の都道府県と十分協議の上で専用化する病床を決定していただきたい。また、医師・看護師等のマンパワーの不足が生じないように、人員体制も合わせて確保するという国として責任を持った対応をお願いしたい。

(ポストコロナを見据えた経済・雇用政策の推進)

- ・ 「ポストコロナを見据えた未来社会づくり」に関して、京都府からの意見を既に提言に盛り込んでいただいたが、デジタル化の一層の推進などによる生産性向上、雇用形態の多様化に向けた制度整備について、コロナの直接の影響がなくても、従来からの懸念事項である人口減少による労働力不足や需要減少などが実はコロナ禍でどんどん加速化しているのではないかとこの心配があるので、その点に留意をしていただきたい。

(地方重視の国土政策の展開)

- ・ 最後に、これも京都府の意見を既に提言に盛り込んでいただいたが、検討が始まっている国土形成計画の策定に当たっては、コロナからの復興を真の国土強靱化に繋げるためにも、是非とも抜本的な国土構造の改革に繋がるような、地方重視の国土政策を示していただきたい。強力に主張してまいりたい。

○ その他の提案要望

「京都府提案項目（パラリンピック・ビジョンとしての障害者の就労・社会参加支援）の説明」

- ・ 提案の「背景」として、パラリンピックの開催ということが一つあり、障害者の社会参加に関心が高まっております。また、ICT技術の進展等により、在宅勤務が可能となり、就労機会が拡大しております。一方、新型コロナの影響で2020年度の障害者の就職件数は減少しているということと、また、障害者の就労・社会参加に関する支援が地方自治体の判断まかせになっているということで、自治体間で取組に格差が生じているということが背景でございます。
- ・ 「課題」として、「重度訪問介護」については、勤務中や通勤時の介助は対象外となっており、これによって就労を断念せざるを得ない方もおられると聞いております。京都市や（三重県）四日市市などでは、独自に補助事業を活用し支援を行われているが、自治体ごとの取組となっているところです。また、例えば、「農福連携」ということでは、我々の「農福連携全国都道府県ネットワーク」もあり、農業での支援だけでなく、西陣織といった「伝統産業との連携（伝福連携）」や「水産業との連携（水福連携）」など、様々な活用場面は広がっておりますが、農福連携でもサポート体制が弱いとか、継続的な支援の仕組みがないといった様々な課題がございます。
- ・ 「提案内容」についてですが、「重度障害者の就労支援」としては、法定給付として制度化して確実な財政措置を講じることで、全国どこでも実施できるようにしていただきたいということ。また、農福連携等の「就労・社会参加の場づくりに対する支援」としては、交付金の使途のイメージを資料に記載していますが、継続的な支援ができるよう、例えば交付金制度の創設などをお願いしたいと思っております。
- ・ 最後に、農福・水福連携などで作られた食材や伝福製品などを、国主体のイベント、国民スポーツ大会、国民文化祭や大阪・関西万博といった場で積極的な活用を図っていただきたい。それが下支えになるということで、そうしたことを提案してはどうかというお願いでございます。

2. 大阪・関西万博に関する見学・情報交換

- ・ 関西広域連合のパビリオンの説明は、仁坂和歌山県知事（関西広域連合長）からありました。また観光については（関西広域連合で）担当しておりますので、万博会場に来られた方に広く周遊していただく。それとは別に京都府知事として発言させていただく。
- ・ 夢洲の万博会場をゲートウェイとして、可能な限り京都府に本格的に来ていただくような仕掛けをしたい。我々としては、「けいはんな学研都市には、パビリオンがある」と言っています、例えば、ロボットや脳科学、レーザーの応用研究など、しかもそうした先駆的な研究に、直接、触れたり見たりすることができるような研究所が既に多数ありますので、連携させていただきたい。
- ・ また、けいはんな学研都市は、なかなか進まないのですが、国の「スーパーシティ構想」に手を挙げており、頑張っており取り組んでいますので、そうしたこともからめて、万博会場とけいはんな学研都市を結ぶようなことに取り組みたいです。また、世界中でも同じような研究テーマで取り組んでおられる方も多数、関西に来られると思うので、是非とも大阪・関西万博を契機に、こうした取組が進みよう連携をお願いしたい。
- ・ 吉村大阪府知事も空飛ぶクルマに大変関心を持っておられるが、例えば、様々な規制があると思うが、都市部の上空が通りにくいのであれば、河川沿いに来ていただいて、万博会場から三川合流を経て、木津川沿いに上がってきていただければ、「けいはんな学研都市」はすぐですので、また「けいはんなプラザ」の屋上にはヘリポートもありますので、今後どうなるかはわかりませんが、できれば直線的に交通手段で結ぶようなことも、念頭に置いていただければと思います。
- ・ 「けいはんな学研都市」だけではなく、京都府内一円で可能な限りいろいろな仕掛けをしたいと思っておりますので、一緒にできることを検討していただければと思います。

(以上)